

科目名	AutoCAD II			担当教員名	佐藤 剛志			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	情報システム (3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)		4単位(80時間)					
実施時期	4月	～	7月	授業形態	講義		演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	なし												
授業の概要とねらい													
資格試験の学習を通して、CADの応用操作と効率の良い作図方法を習得する。 前半は、CAD利用技術者試験1級(トレース)の試験対策を通して、効率的な作図方法を習得する。													
到達目標													
CAD利用技術者試験1級(トレース)に合格。													
授業計画													
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
CAD利用技術者試験1級 試験対策 1 / 実技問題					35	過去問について作図方法の解説と作図練習を繰り返す。							
CAD利用技術者試験1級 試験対策2 / 学科問題					15	過去問について問題の解説を繰り返す。							
CAD利用技術者試験1級 模試					30	対策問題を使用して模試を実施。 不合格者には追加課題を指示。 (課題未提出者は欠席扱いとする。)							
合 計					80								
時間外学習について													
授業終了時に次回の学習範囲を伝達するので、参考書を使い予習すること。 授業時に配布した練習用プリントを用いて、時間外に復習をすること。													
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について													
評価の割合は、CAD利用技術者試験1級(トレース)の結果より評価点(100点満点)を算出する。評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。 尚、必要時間数を満たしていない場合はD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													
自動車部品設計の実務経験を活かし、効率の良いCADの使用法と、見やすい設計図の書き方を解説、指導しながら資格取得につなげる。													

科目名	CAD 応用			担当教員名	平井 史広			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	情報システム(3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)		7単位(140時間)					
実施時期	9 月	～	2 月	授業形態	講義		演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	技能検定過去問												
授業の概要とねらい													
資格試験の学習を通して、CADの応用操作と効率の良い作図方法を習得する。 技能検定(機械・プラント製図)3級の試験対策を通して、組立図の見方を理解し図面作成に関する知識を深める。													
到達目標													
技能検定3級に合格すること。													
授業計画													
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
技能検定3級 対策1 / 組立図の見方					12	実技試験の解き方を項目ごとに解説							
技能検定3級 対策2 / 寸法記入方					12								
技能検定3級 対策3 / 表面粗さの考え方					12								
技能検定3級 対策4 / 作図練習					70	実技試験の過去問を用いて作図練習と図面チェックを繰り返し行う							
技能検定3級 対策5 / 学科試験対策					14	学科試験の過去問を用いて解説を繰り返し行う							
技能検定3級 模試					20	対策問題を使用して模試を実施 不合格者は補習を行う							
合 計					140								
時間外学習について													
授業終了時に次回の学習範囲を伝達するので、参考書を使い予習すること。 授業時に配布した練習用プリントを用いて、時間外に復習をすること。													
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について													
評価の割合は技能検定3級の結果を50%、授業の取り組み姿勢50%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													
精密部品設計の実務経験を活かし、効率の良いCADの使用法と見やすい設計図の書き方を解説、指導しながら資格取得につなげる。													

科目名	REVIT		担当教員名	堤 明裕		□ 実務経験	
学科名	情報システム(3DCAD専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	4単位(80時間)	
実施時期	4月～7月	授業形態	講義	演習	○	実習	実技
教科書 及び参考書	はじめてのRevit&RevitLT 実践！BIM入門ガイド(株式会社エクснаレッジ)						
授業の概要とねらい							
建築系3DCAD(Revit)の基本的な操作方法 ・前半は3DCADの操作方法を習得し、基本的な部品の3Dモデルを作成する技術の習得。 ・後半はRevitを使った建築物の制作課題にとり組み、建築設計とBIMの理解を深める。							
到達目標							
・建築3DCAD(BIM)の基本概念的な理解とRevitの基本操作の習得。 ・BIMモデルの制作技術の理解と実践的な建築物の制作技術の習得。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
導入・インストール			2	デモを行いながら、機能の説明を行う。 学習の概要を説明する。			
Revitでのモデリング ・プロジェクトの作成 ・レベル/通り芯の作成 ・壁(外壁/内壁)の作成 ・床の作成 ・建具の配置 ・天井の作成 ・間取りのグループ化とコピー ・部屋の設定 ・共有/占有面積の確認 ・外廊下/バルコニーの作成 ・エントランス/風除室/階段の作成、エレベータの配置			25	テキストの4階建て集合住宅の制作を行う。 テキストに沿って演習と解説を行い、操作の習得とBIMの基本的な概念的な理解を深める。			
プレゼンテーション ・マテリアルの設定 ・方角、場所、太陽の設定 ・パースビューの作成 ・クラウドレンダリング ・ショットパース			8	前項で制作したモデルを使用して、機能の確認を行う。			
図面作成 ・1F平面図の作成 ・住戸平面図の作成 ・占有/共有面積図の作成			18				
総合演習(戸建て住宅の作成)			26	チュートリアルを使って演習を行う。			
期末試験			1	用語を中心とした問題を出題する。			
合計			80				
時間外学習について							
授業終了時に次回の学習範囲を伝達するので、テキストを用いて予習を行う事。							
成績評価の方法及び評価割合について							
出席状況と授業態度を25%、演習課題の完成度を25%、期末試験の点数を50%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	建築プロダクト			担当教員名	堤 明裕		□ 実務経験	
学科名	情報システム(3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	3単位(90時間)	
実施時期	9月	～	3月	授業形態	講義	演習	実習	○ 実技
教科書 及び参考書	なし							
授業の概要とねらい								
1年次に学習したCAD操作とプロダクトデザイン・設計の知識を発展させ、デザインから設計までを行う実習授業。また、身近にある建築物を観察し、理解する力を深める。								
到達目標								
設計図作成と手作業によるモデル作成。3DCAD、レーザーカッターの補助使用を前提とし、3DCADソフトを活用する								
授業計画								
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
課題① 個人による一般住宅の模型作成 (2階建て一般住宅)				1	制作する住宅の外観のスケッチを行う。			
				4	スケッチから住宅の間取り平面図をCADで作図する。			
				8	作図した平面図を利用し、模型作成用の壁面設計図をCADで作成する。			
				4	平面図、壁面図をプリントアウトし、スチレンボードに貼りつけ切り抜きを行う。			
				20	切り抜いたスチレンボードを組み立て、建築模型を完成させる。			
課題② チームによる集合住宅模型の作成 (マンションを想定)				2	集合住宅の建築地域を想定し、利用者のプロファイリングを行い、集合住宅の規模を確定する。			
				1	制作する住宅の外観のスケッチを行う。			
				6	スケッチから住宅の間取り平面図をCADで作図する。			
				8	作図した平面図を利用し、模型作成用の壁面設計図をCADで作成する。			
				6	平面図、壁面図をプリントアウトし、スチレンボードに貼りつけ切り抜きを行う。			
合計				90				
時間外学習について								
課題の制作は、授業時間外にも自宅で作業を行い、各段階でチェックを受ける。または提出をする。								
成績評価の方法及び評価割合について								
「課題①」を40%、「課題②」を60%で課題の出来具合により評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	ランドスケープモデリング		担当教員名	平井 史広		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(3DCAD専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(30時間)	
実施時期	1 月 ~ 3 月	授業形態	講義		演習	△	実習
教科書 及び参考書	見てすぐつくれる建築模型の本(彰国社)						
授業の概要とねらい							
建築物のモデリングだけではなく道路や駐車場など周りの風景を作る。 法律や規格にあったものを作ることで建築のみならず設計・測量の知識を学ぶ。							
到達目標							
自分たちが想定した街を作り、ジオラマを完成させる。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
1. 地図を作る			1	授業の初心を説明 造形についての講話			
紙を使用しおおまかな地図を作る			3	どのような建物が建ち、どのような街並みなのか 商業区域なのか住宅区域のかなど ある程度の設定を決める			
2. 図面作成			3	紙で作った地図をCADで引きなおす			
紙から電子化 決めた設定に従い作成していく			3	図面に細かい設定を追加していく			
3. ジオラマ作成			20	建物や道路などの作成			
発砲スチロールなどを用いて立体物を作成							
合 計			30				
時間外学習について							
課題の制作は、授業時間外にも自宅や学外で作業を行い、各段階でチェックを受ける。または提出をする。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
課題の出来具合により「3. ジオラマ作成」を100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
測量業務に携わっていた時の知識を基に実際の規格・法律に合わせてジオラマ作成を教えていく。							

科目名	クラス活動Ⅱ			担当教員名	堤 明裕			<input type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	情報システム (3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)		3単位(60時間)					
実施時期	4月	～	12月	授業形態	講義		演習	<input type="radio"/>	実習		実技		<input type="radio"/> は主、 <input type="triangle"/> は併用
教科書 及び参考書	必要に応じてプリント資料を配布												
授業の概要とねらい													
基礎学力の向上と、就職試験における筆記試験対策													
到達目標													
就職活動で求められる知識と文章力の向上													
授業計画													
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
SPI3: 非言語問題				24	効率の良い数式の解答、仕事算、濃度算、旅人算等、就職試験の筆記試験対策を実施する。								
SPI3: 言語問題				15	同意語・反意語、ことわざ・四字熟語、慣用句、長文読解などの就職試験の筆記試験対策を実施する。								
新聞記事考察				10	新聞記事を読み、記事の内容とそこに至るまでの経緯を調べ、自分なりの意見を文章にまとめる。								
タイピング練習				10	テキストを使用して、スケッチの練習を行う。								
期末試験				1	筆記試験を行い成果を確認。								
合計				60									
時間外学習について													
時間内に終わらなかった課題は、時間外に終わらせて提出すること。													
成績評価の方法及び評価割合について													
課題の提出状況を60%、期末試験を40%で総合的に評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間を満たしていないものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													

科目名	建築設備基礎		担当教員名	堤 明裕		□ 実務経験	
学科名	情報システム(3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	○	演習
教科書 及び参考書	世界で一番やさしい建築設備 最新改訂版(株式会社エクスナレッジ)						
授業の概要とねらい							
住居やビルの設計に欠かせない空調設備や防音、電気設備などの設備知識を身に付ける							
到達目標							
各章の設備名に関する説明が出来ること。期末テストを行い評価する							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
建築設備について、一般・集合住宅の設備				1	設備とは何か。一般住宅とビルの設備の違い		
給・排水設備				1	生活に必要な水の引込について 使用済み排水と汚水の処理について		
給排水に関連した住宅の各種設備				1	居住に必要な水を使った住居用設備		
換気・空調の基本				1	日本の四季に対応した建材の利用や設備		
電気の引き込みに関する設備				1	配電施設(電柱)から住居への通電		
室内への電気供給と室内家電				1	室内用配電設備と家電設備		
住宅用ネットワーク設備・防犯設備				1	住居用インターネット設備		
ホームエレベーター・ホームシアターと住環境での音の知識				1	住居用エレベーターとホームシアター、音の特性		
ビルの電気設備				1	オフィスなどビル用電設機材		
ビルの換気・消防設備				1	ビル用換気設備と防火・消火、換気設備について		
ビルの昇降機と各種ダクト設備				1	ビル用エレベーターと通気ダクトについて		
省エネ設計設備(遮蔽・自然エネルギーの利用)				1	壁や床など遮蔽物による省エネの考え方と設備 自然エネルギーを利用した設備		
家庭用省エネ設備				1	エコキュート・エネファームなどの家庭用設備		
地域と商業施設の省エネ設備				1	地域全体や大型施設での省エネ設備		
期末テスト				1			
合 計				15			
時間外学習について							
毎時間、各項目ごとに提示した教科書の重要項目について復習を行うこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	設備設計			担当教員名	中津留 徹			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験				
学科名	情報システム (3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)		4単位(80時間)				
実施時期	10	月	～	3	月	授業形態	講義	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	なし											
授業の概要とねらい												
以下の各業種の代表的な製作物の、設計手法の取得を目指す。 ①伝達装置(カム・歯車・ベルト車) ②土量計算(宅地造成における設計高の決定) ③コンベアの支持架台 ④貯蔵サイロ												
到達目標												
各業種における、設計手順と使用部材の決定及び成果簿としての設計図の作成の手順を習得する。												
授業計画												
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
伝達装置①(カム機構 2種類)			6	カム機構の設計方法を解説。								
伝達装置②(歯車機構 2種類)			6	歯車機構の設計方法を解説。								
伝達装置③(ベルト車機構 2種類)			6	ベルト車機構の設計方法の解説。								
土量計算(宅地造成の設計高の計算)			6	宅地造成の設計高の計算方法の解説。								
コンベアの支持架台の設計①(設計規準及び概略図の作成)			6	ベルトコンベアの支持架台の設計方法を解説した後、 作図の手順や手法の習得のため時間内に終了していない場合は時間外学習にて補うこと。								
コンベアの支持架台の設計②(基本設計図の作成)			6									
コンベアの支持架台の設計③(接合部詳細図の作成)			6									
コンベアの支持架台の設計④(ガセット詳細図の作成)			6									
コンベアの支持架台の設計⑤(ボルト配置図の作成)			6									
コンベアの支持架台の設計⑥(使用部材表の作成)			6									
コンベアの支持架台の設計⑦(ネスティング図の作成)			5									
コンベアの支持架台の設計⑧(模型の組立)			5									
貯蔵サイロ設計			5	水貯蔵タンクと石灰岩貯蔵タンクの設計方法を解説する。								
期末テスト			5	設備設計の知識について総合的な試験を行う。								
合 計			80									
時間外学習について												
各種機械の構造について予習を行うこと。 授業で解説した設備について復習を行うこと。												
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について												
評価の割合は、期末試験の結果を50%、提出してもらった設計図の完成度を50%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていない場合はD(不可)とする。												
その他(科目と実務経験との関連性について)												
構造設計、設備設計の業務で経験した知識をもとに、前半はエクセルを使った構造計算の方法から計算書の作り方を指導する。 後半は色々な設備の設計(計算)方法を指導する。												

科目名	建築CAD			担当教員名	長門 利勝		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	情報システム (3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	3単位(90時間)			
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	演習	実習	○	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	製図の基本・CAD検定試験参考書 (エクснаレッジ)									
授業の概要とねらい										
REVITの理解と表現技術の習得										
到達目標										
実社会で行われている作業や業務の進行に支障のないスキルを身に付けた人材の育成する。										
授業計画										
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
建築モデリング課題 (自分の住みたい住宅を設計する)				20	建築物の構想					
				25	平面図の作成					
				25	住戸平面図の作成					
				20	占有/共有面積図の作成					
合計				90						
時間外学習について										
REVITの操作方法をしマスターしておくこと。										
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について										
完成データの完成度より評価点(100点満点)を算出する。 評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていない場合はD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
1級建築士として実務で得た知識を生かし、建築設計の基本及び実際に設計した家の実例を紹介しながら建築図面の書き方を指導する。										

科目名	建築基礎Ⅱ			担当教員名	長門 利勝			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	情報システム(3DCAD専攻)		学科	学年		2		単位数(時間数)	2単位(30時間)		
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	○	演習	実習	実技	○は主、△は併用	
教科書 及び参考書	図解テキスト 基本建築学(彰国社)										
授業の概要とねらい											
安全で快適な室内環境や都市環境を支える技術者の育成、また設備の寿命を考慮した学問として考える。 これからの時代最小限のエネルギーで設備をコントロールする必要性を説いていく。											
到達目標											
資格検定 設備士への受験対応として捉え、其れに則した知識の習得を目指す。											
授業計画											
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
part1	設備計画を始める前に	2	戸建、共同住宅の設備・スケルトンインフェルについて。								
part2	給排水・給湯の基本	2	調査・給水方式・経路と施工。								
		3	排水路・雨水計画・浄化槽・給湯器・ガス設備。								
part3	換気・空調の基本	2	配管の種類・キッチン・浴室・トイレ・火災報知器。								
		2	換気の種類と方法。								
part4	電気・通信の基本	2	空調の種類 設置方法。								
		2	電気の引き込み・回路・コンセント。								
part5	事務所ビルの設備	2	照明器具・TV・電話・音の基礎知識。								
		2	受電・空気調和。								
		2	換気・排煙設備・消火栓・非常照明・火災報知器。								
		2	オフィス照明・セキュリティ・昇降機・避雷針。								
part6	設備図と関連資料	2	次世代エネルギー・建物の断熱、遮熱・自然エネルギー。								
		2	エコアイス・エコキュート・エコファーム。								
合 計		30	給排水・空調・電気設備図等。								
時間外学習について											
次回の学習範囲を伝達するので、その範囲について教科書を使い予習をすること。 各自、身近な建築物を観察し、授業で学んだ事を再確認し、身に付けていく。											
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について											
期末試験の結果で評価し、評価点(100点満点)を算出する。 評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていない場合はD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
1級建築士として実務で得た知識を生かし、建築設計の基本及び実際に設計した家の実例を紹介しながら建築基準を考えた家の設計方法を指導する。											

科目名	メカ工学Ⅱ		担当教員名	首藤 一之		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験				
学科名	情報システム(3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	7単位(105時間)			
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	○	演習	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	機械要素入門1(実教出版)									
授業の概要とねらい										
<p>機械力学や材料力学の基本的な計算方法を学び、機械の構造や仕組み、設計基準を理解できる人材を育成する。 授業の概要としては講義を主体とし、各項目終了時に演習問題を行い、理解度を確認する。 (不合格者には追加課題の提出を指示する。)</p>										
到達目標										
<p>基本的な機械要素部品の名前、機能が分かること。 機械に加わる物理的な力や運動、機械材料に作用する引張りや曲げ、ひずみ、ねじり、座屈、梁の初歩的な強度計算が行えること。</p>										
授業計画										
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
第1章 機械と設計		6	機械のなりたちと機械設計の意味について学習。							
第2章 機械に働く力と仕事		4	力の合成と分解について学習。							
		4	力のモーメントと偶力について学習。							
		4	力のつり合いについて学習。							
		4	円運動について学習。							
		4	運動量と力積について学習。							
		4	道具や機械の仕事、エネルギーと動力について学習。							
		3	摩擦と機械の効率の関係について学習。							
		3	確認テスト。							
第3章 材料の強さ		3	荷重について学習。							
		3	荷重と材料について学習。							
		4	応力とひずみについて学習。							
		3	弾性係数について学習。							
		4	せん断力とせん断ひずみについて学習。							
		3	横弾性係数について学習。							
		3	熱応力について学習。							
		3	線膨張係数について学習。							
		3	材料の破壊と疲労について学習。							
		3	許容応力と安全率について学習。							
		3	はりの種類と荷重について学習。							
		4	はりのせん断力と曲げモーメントについて学習。							
		3	せん断力図と曲げモーメント図について学習。							
		3	曲げ応力と断面係数について学習。							
		3	曲げ応力と断面係数について学習。							
		3	はりの断面形状・寸法について学習。							
		3	はりのたわみについて学習。							
		3	軸のねじりについて学習。							
		3	ねじり応力と極断面係数について学習。							
		3	柱の座屈について学習。							
3	柱の強さについて学習。									
3	確認テスト。									
合 計		105								
時間外学習について										
<p>次回の学習範囲を伝達するので、その範囲について教科書を使い予習をすること。 授業の内容を復習しておくこと。</p>										
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について										
<p>確認テストの平均点を80%、授業への取り組み姿勢を20%より評価点(100点満点)を算出する。 評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。 尚、必要時間数を満たしていない場合はD(不可)とする。</p>										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
<p>航空機整備用設備の機械要素開発及び航空機製造検査業務に携わった経験を活かし、機械要素の種類や機能および力学計算を使った設計方法を指導する。</p>										

科目名	キャリア教育			担当教員名	工藤 マリ・佐藤 剛志			<input type="checkbox"/> 実務経験						
学科名	情報システム(3DCAD専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)		1単位(15時間)						
実施時期	8月	～	3月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="triangle"/>	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	なし													
授業の概要とねらい														
・グループディスカッションを通してコミュニケーション能力の向上 ・自己PRの確認と履歴書の準備を行う														
到達目標														
コミュニケーション能力の向上と、社会人になる上で最低限必要となるマナーと知識を習得する														
授業計画														
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)											
インターンシップ		4	インターン先については別途連絡する。											
作文指導		4	3段階に分けて個別指導、課題について作文し、提出・添削する。											
面接指導		4	具体的な展開と実践。											
履歴書指導		3	履歴書の書き方を指導。											
合計		15												
時間外学習について														
授業で出された自己PR課題、作文課題などは時間内に終わらなければ仕上げること。														
成績評価の方法及び評価割合について														
履歴書作成課題、面接練習、作文課題の評価をそれぞれ合算し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていない場合はD(不可)とする。														
その他(科目と実務経験との関連性について)														